

語用論的誤り分析に見るデータ収集法の一考

高野 晃尚
中南大学

A Study of Data Collection Methods in Pragmatic Failure Analysis

TAKANO, Akinao
Central South University

Abstract

学習者の語用論的ストラテジーを調査する中間言語語用論や学習者母語と目標言語のストラテジーを比較する対照語用論の研究などでは、学習者や目標言語母語話者に対して発話の調査を行い、言語運用の実体を解明することに主眼を置いている。一方、学習者が犯す語用論的誤りの研究は、日本において管見の限り少なく規模が非常に小さい。しかし、中国では数多くの研究成果があり、それらの手法は様々な示唆を与えてくれる。本稿では外国人に対する中国語教育を中心に研究手法、特にデータ収集法を概観した。その結果、多くの接触場面として「友達」に対して、多肢選択形式で解答を選ばせるものであり、当該発話を誤りと認識する研究者の価値観が大きく反映されているものであった。「友達に対する発話に正解はあるのか」という哲学的問いから、多肢選択を使用したデータ調査が如何に不確定要素が多いのかを論じた。

Keywords: 多肢選択, 場面設定, 語用論的誤り

1. はじめに

「誤用分析」を概観してみると、その多くが語彙や文法、音声など主に言語面に焦点が置かれたものが目立つ。しかし、言語面の誤用より相手の感情を害する可能性がある語用論的誤用の方が実際のコミュニケーションで相手の気分を害する可能性があり、より問題が大きい。しかし、管見の限り、語用論的誤りに関する研究はあまり行われていない。

CiNii で「語用論 誤り」で検索すると 26 件、「語用論 誤用」で検索すると 27 件がヒットする (2023 年 3 月 27 日現在) が、検索結果として出てきたものが「語用論」とは関係なさそうなものも散見され、語用論教育の重要性が主張される一方、日本国内での研究規模は大きくない。

中国国内では、当該発話の正誤をテーマとした「語用論的誤り」(語用失误)の研究が非常に盛んであり、中国の最大手論文検索サイトである“知网”¹を用いてキーワード検索²をかけると学術論文・修士論文・博士論文を含めて 3971 本 (2023 年 3 月 29 日現在) がヒットする。外国人を対象とする中国語教育分野では 258 本が (2023 年 3 月 29 日現在) ヒット³する。

研究規模の大きさから中国の「語用論的誤り」の研究手法や調査結果、及びそれに伴う語用論指

導の方法は、日本国内で外国語教育に従事する語学教師や、海外で日本語教育に従事する日本語教師に様々な示唆を与えてくれる可能性がある。

しかし、「語用論的誤り」の研究の中にはデータ収集法における論理的欠如や、調査対象の選定基準の不備、自身の主張に都合の良いデータを意図的に用いる確証バイアスの強いものも多くあり、隔靴搔痒の感がある。

そこで、本稿では「語用論的誤り」の研究デザインとデータ収集法にどのような問題があるかを概観し、中国の外国人に対する中国語教育（以下、対外中国語教育と称する）研究から例証していく。

2. 語用論的誤りの定義

2.1 誤用の定義

Thomas (1983)は第二言語学習者の発話に見られる語用論的誤りを語用言語学的誤りと社会語用論的誤りの2つに分けている。

語用言語学的誤りは、何が適切な言語行動をする際に言語文化によって異なっていることから生じる問題であり、社会語用論的誤りは、語用論的に発話内のもつ意味が異なる言語形式を母語から直訳することから生じる問題である。そして、それら2つの誤りの原因は母語からの転移であると Kasper (1992)は指摘している。

Kasper (1992)は語用論的転移の定義を以下のように述べている。

...the influence exerted by learners' pragmatic knowledge of other languages and cultures on their comprehension, production, and acquisition of L2 pragmatic information. (p. 207)

また、語用論的転移は①語用言語学的転移と②社会語用論的転移の2つに分けることができる。Kasper (1992) は以下のように定義している。

① ...process whereby the illocutionary force or politeness value assigned to particular linguistic material in L1 influences learners' perception and production of form-function mappings in L2. (p. 209)

② ...when "the social perceptions underlying language users' interpretation and performance of linguistic action in L2 are influenced by their assessment of subjectively equivalent L1 contexts. (p. 209)

小野 (2020) では語用論的転移に関して「母語の形態が第二言語の規範の一部に当てはまり成立する正の転移と、逆に母語の、第二言語にはない形態が第二言語発話で使われてしまう負の転移の2方向がある。負の転移のように、目標言語の語用論的知識が欠けるためコミュニケーションを阻害することには、語用論上の誤用が関わっている。」(p. 248) としている。

黒滝 (2001), 水野 (2001), 蒙 (2008)・(2018), 木村 (2008), 和田・堀江 (2010), 楠木 (2018), 戸森 (2018) など研究では, 具体的な発話行為 (褒め, 断り, 謝罪, 感謝など) を取り上げ, 対照語用論⁴的に各発話行為 (「断り」・「依頼」・「感謝」・「謝罪」など) を観察した結果, 学習者は自身の母語のポライトネスを目標言語に持ち込む (語用論的転移) ことで誤用が起こる傾向があると指摘されている。

2.2 語用論的転移と言語転移の定義

言語転移に関しては, これまで様々な研究者が定義付け⁵を行っており, 第二言語学習者の母語が目標言語に与える影響は対照分析仮説・誤用分析・中間言語の時代にまたがって注目されているが, これらは主に学習者の言語能力に焦点が置かれていたものである。

Žegarac & Pennington (2000, 鶴田訳 2004) は語用論的転移と言語転移の違いを以下のように定義している。

「言語転移」という用語は次の2つの理由で, L2 (の文法) 習得についてのみ使ったほうが適切だと考えられる: (a) L1 と L2 はそれぞれ自己完結した知識体系をなすものであり (両者の間には類似点がある場合もあるが), (b) 言語転移を起こす知識体系については内省することができない。一方, 語用論的転移は, 言語転移と違って, コミュニケーション上の新しい問題を解決するのに既存の知識が多少なりとも役立つコミュニケーション場面ならいつでも起こる可能性がある。言語知識と語用論領域の知識とが異なるものであるというだけでなく, 相互に独立したものである以上, 語用論的転移を言語習得と本質的に関係があると見るべきものではないと言える。」(p. 107), また「語やそれが複数集まった表現の意味 (つまり言語的意味) についての知識と, それらがどのように使われるかについての知識との間には無視しえない大きな違いがある。したがって, 語用論的転移を言語知識の転移の一種とする見方は根拠を持たない。」(p. 110)

つまり, 語用論的転移と言語転移という用語は大きく異なっており, 別の概念ということである。

3. 語用論的誤りに関する諸問題

3.1 誤りの認定

文法的には問題ないが, その発話が当該文化圏的に許容できないものがある。しかし, 当該発話を良いとする・悪いとする, つまり「誤用」と認定する判断は人による。

清水 (2018) が「適切さや丁寧さには, 文法のように唯一絶対の「正解」がありません。(中略), 文法のように「これが正解です」という一つの答えを示すことができないのです。」(p. 98) というように, コミュニケーションには「正解」がないためである。

また, 誤りの認定に関して宇佐美 (2014) は以下のように述べている。

「一口に誤用といっても、その誤用が受け手にとって理解可能なものなのか、不快さを引き起こしうるものなのか、結局のところ許容されるものなのか、という「誤用の重みづけ (error gravity)」の判定には大きな幅があることが考えられる。そしてその判定はまた、判定者の属性(教師か教師でないか、母語話者か非母語話者か、外国人との接触経験が豊富か寡少か、等)によっても大きく異なる可能性があるだろう。」(p. 39)

学習者の発話を適切・不適切、自然・不自然、失礼か否かをすべての目標言語母語話者が同一の判断をすることはありえない。宇佐美(2014)の主張と重なるものとして、銭(2002)が提唱している「語用論的誤りの容認度」という概念があり、0か100という正誤は存在しないと主張している。

学習者に対して目標言語母語話者が下す正誤判断は評価研究とよばれる。宇佐美(2013)は「評価」に対して「主体が持つ内的・暗黙的な価値観に基づいて、対象についての情報を収集し、主体なりの解釈を行った上で、価値判断を行うまでの一連の認知プロセス。また、その結果として得られる判断」(p. 125)と定義をしている。「主体なりの解釈」という文言からもその会話なり発話なりの参加者による主観的判断ということになる。この主観的判断が大なり小なり関与することから、学習者の「誤用」認定には論理的必然性が薄く普遍的な事象として取り扱うことは難しいのである。

3.2 実証的調査における研究デザイン

対照語用論として、日本語運用や英語運用を比較するなどの研究では、相違点や類似点を明らかにすることや、外国語教育への応用などを視野に入れる場合は、様々な場面設定(自身と相手との距離(親疎上下関係)やどこで発話が行われるのかという場所)での発話行為の調査を経て実証していくことが重要だとされる。

一方、語用論的誤りを中心に据えている研究には、些か不適切だと思われる場面設定もある。それは「友人/友達」を相手にした場面の設定である。それは、対人関係での所謂、内集団に属する友人を相手にとり、友達にどのような発話をするのが適切であるかを論じるものである。日本国内での研究では、例えば張(2004)がある。張(2004)では「母語話者と非母語話者がお互いの「好ましい会話の展開パターン」を予め認識していれば、接触場面でのミスコミュニケーションは改善されるものとする」と前置きしているが、調査の場面設定は「親しい友達に五千円を貸してもらおうように頼む」と「親しい友達に自分の代わりにアルバイトに行ってもらおうように頼む」である。

ここで重要なのは、親しい友達に対しての依頼発話に好ましい・好ましくないは存在するのだろうか、ということである。

語用論的誤りを考える際に注意しなければならないのが「誤り」だと判断する評価者である。この評価者は、研究者自身の場合と目標言語母語話者集団の場合がある。各々の評価者は当然な

がら、個々人の思想・信条・価値観などを基に判断をする。人間関係からコミュニケーションを評価することに対して、田所（2016）は以下のように述べている。

人間関係の上下・親疎や場の改まり・くだけを考慮した上で何をどう話すかという、場面に重点を置いたコミュニケーション教育において、正解というものは存在しない。なぜなら、コミュニケーションの相手は多様な価値観を持った人間であるため、その評価も多様になるからだ。（p. 155）

「人間関係」とはどんなものであるか、という認識は十人十色であるため、特に親しい友達が相手となる接触場面を想定した調査などでは、評価者の「友達観（自分にとっての友達とはこのような付き合いができる相手）」が大きく影響する。

例えば、「友達に対してペンを貸してと依頼する」のような発話を評価する場合、「友達に対してならぶっきらぼうな言い方でも良い」・「相手が友達でもこの言い方はダメ」・「親しき中にも礼儀ありだ」など、評価者の友達観（哲学）の問題になってしまうのである。

接触場面での当該発話の適切不適切を判断し、言語教育の現場では明示的に指導していくことも重要であるが、「友達同士のコミュニティ」に教員が「相手が友達ならこう言いましょう」と指導することは可能なのだろうか、という指導面からの課題も同時に生まれてしまう。

3.3 誤り認定の課題

コミュニティに参加している人同士の価値観や付き合い、パワーバランスや個人のキャラクターなど様々なパラメーターが存在する以上、当事者間で合意が取れていれば、他人がとやかく言うべきではないだろう、という意見に論理的反駁の余地は少ない。

学習者の語用論的誤用の認定基準は存在しないため、評価する側である目標言語母語話者の見解が一致することはない。仮に、目標言語話者が「良い・悪い」と判断した場合、そこにはある種の絶対的お墨付きが付加され、学習者と立場的上下構造が自動的に生まれてしまうという第二の問題も孕んでいる。

目標言語母語話者による判断を拠り所にする危険性を示しているのは佐藤ほか(2013)であり、以下のような主張をしている。

「言語特有の規範を「ノンネイティブスピーカー」に強要することは、コミュニケーションにおいて「ネイティブスピーカー」がいつも正しいといった幻想を生み出し、外国語学習者と「ネイティブスピーカー」の間に上下関係を作ってしまう可能性がある。」（p. 14）

大平（2009）でもネイティブスピーカーの言語行動を模範・常識とすることに対して「「ネイティブスピーカー＝標準」, 「ノンネイティブスピーカー＝逸脱」という一般的な固定概念が強化される側面は否定できない。」（p. 106）と主張しており、ネイティブの誤用認定を絶対視するこ

とを問題としている。

また、目標言語母語話者集団への評価依頼をせずに、研究者自身が「良い・悪い」を判断するスタイルもある。木村（2008）は学習者の発話に関して「問題ないと思われる発話例」・「模範とも言えるような発話」・「適切とは言えないであろう」と評価を下している。しかし、何を以って問題ない・模範的・不適切と判断しているのか、その根拠及び判断基準は全く示されていない。

基準がない以上、少なくとも何人以上の母語話者集団からの評価を統計したものをを用いるのがより説得力のある判定かもしれない。

3.4 データ収集法選択

言語データを収集する方法には様々なものがあり、1つの方法を採用するスタイルと、いくつかの方法を掛け合わせるスタイルがある。

Kasper（2000, 福島訳 2004）では、語用論に関する収集法が9つ紹介されており、それぞれに詳しい解説とメリット・デメリットが示されている。注意しなければならないのが、選択回答（単一回答：二項選択・多項選択）によるデータ収集である。Kasper（2000, 福島訳 2004）は多肢選択に対して以下のように述べている。

語用論的ストラテジーに研究者の注意が及ばないこともあるので、応答を直感的に作り出すことはよいとは言えない。応答選択肢を選ぶ有効な資料は、言語産出アンケートによって収集された発話行為のストラテジー（Rose and Ono 1995）、口頭談話（自然なものや誘出されたもの）、言語理解アンケートに対する自由な応答（Bouton 1988）等である。（p. 154）

また、Seliger & Shohamy（1989, 星訳 2001）では、多肢選択について以下のような説明をしている。

多肢選択（Mutiple choice）：この技法は普通、前に提示されている文章や問題などに基づいて、被験者にいくつかの選択肢から正しい答えを「選ばせる」ものである。リーディング、リスニング、文法、語彙、ライティングのテストに用いられる。（p. 194）

この主張からみれば、語用論のデータ収集には多肢選択は不適切と言えるかもしれない。また、多肢選択という方法が批判されることもしばしばある、水野（2004）や池上（2015a・2015b）では、実際には理解していなくても正解することができる（勘が当たる）、という点からデータの信憑性に疑問を呈している。また、清水（2016）でも、「選択肢の中から近いものを選ぶだけで、（中略）、実際の発話で使われる言語形式まで明らかにすることはできない。また、協力者が考えるものが選択肢の中になく場合には、実際の答えと違うものを選ぶことになってしまうという点にも注意が必要で4ある。」（p. 228）と述べている。

さらに、単純に選択肢から選ぶ際に、選び間違えてしまうことがある。語用論的誤りを扱った

研究の場合なぜ学習者はこれを選択したのか、という原因に言及する必要が生じることが往々にしてある。多くは、Kasper (1992) の主張通りに母語からの転移であると結論付けている。しかし、論文執筆者が学習者の母語知識を有しているとは限らず、根拠が乏しい主張になってしまうことがある。

以下は、苏倩（2020）にある記述である。

10. 知名学者张教授在图书馆做报告，提问环节你有问题想问教授，你应该怎么称呼呢？

A. 教授您好 B. 教授张 C. 老师您好

“教授您好，老师您好”都是合适的称呼，但是“教授张”在汉语里是不说的。选择 B 的有来自泰国，比利时，俄罗斯，美国，日本，法国，德国，巴基斯坦的留学生，汉语水平在 HSK3-5 级之间。以英语为母语的人，习惯把姓氏放后面，就会导致这个偏误。综合来看，有大约 30% 的留学生会受到母语负迁移的影响，称呼别人的时候称呼姓氏或者把职业放前面，姓氏放后面，这都是不符合汉语称呼语规则的。(p.12)

10. 著名な学者である張教授が図書館で発表をしている。質疑応答になり、あなたは教授に質問したい時、どのように相手に呼びかけますか？

A. 教授こんにちは B. 教授張 C. 先生こんにちは

「教授こんにちは・先生こんにちは」は共に適した呼びかけであるが、「教授張」は中国語では言わない。B を選んだのは、タイ・ベルギー・アメリカ・日本・フランス・ドイツ・パキスタンの留学生であり、中国語レベルは HSK3-5 の間である。英語を母語話者とする人の習慣は姓を後ろに置くため、このような間違いが起こる。総合的にみて、30% の留学生が負の母語転移の影響を受け、呼びかけの際に苗字で呼んだり、職業名を姓の前に置くなど中国語の呼び方のルールに合っていない。(筆者訳)

もっともらしい解説をしているように見えるが、B を選んだ学生の原因として「英語を母語話者とする人の習慣は姓を後ろに置くため、このような間違いが起こる。」としているものの、ここで英語を母語としているのはアメリカ人だけであり、結局何が原因で間違いが起こったのか不明瞭なままである。母語の転移ならば、少なくとも日本人は B を選ばない（日本語なら張教授の呼び方が一般的）ため、選び間違えてしまったという可能性が高い。

また、選択肢の中に答えがいくつか存在する場合もある。語用論の調査の場合、往々にして文法的には問題がない場合が多いため、判断がつかないものもある。

苏倩（2020）にある多肢選択問題である。

你用毛笔字写了一首诗，你的朋友都说你的字真好看，你怎么回应别人对你的赞美呢？

A. 谢谢，过奖了 B. 我的毛笔字很不错 C. 哪里哪里 (p. 36)

筆ペンで詩を書いた時、あなたの友達はみな字がきれいだと言いました。あなたはどのようにほめられたことに応答しますか？

A. ありがとう。でも褒めすぎだよ。B. 私の筆使いなかなかでしょ。C. そんなことはないですよ。（筆者訳）

相手が友達なら、実際 A・B・C どれも正解だと言える。これは相手と自分のコミュニティと付き合い方の問題である。また、日本語でも A・C が選択肢があれば迷うのと同様にこの問題を筆者の学生らに見てもらった所、全員が A・C 両方が正解だと主張していた。

4. 中国における語用論的誤りの研究

4.1 学位論文

上述のように、中国における語用論的誤りの研究量は非常に多い。対外中国語教育分野での語用論的誤りの研究は総数 258 本の論文があり、その中で 150 本が学位論文である。論文の年度別量を調べてみると、中国が経済大国になってきたこと（ビジネス面での人気学習言語など）や、国際情勢からのロシア、中東・アフリカ諸国とのつながりの深さ、世界に向けて孔子学院（中国語・中国文化教育機関）の輸出なども関係し、研究しやすい環境が全体的に増えたのであろう。

表 1 は年度別にまとめた論文の本数である。

表 1

年度別論文数

年度	2000	2002	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
本数	2	2	2	2	6	1	8	11	10	16
年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
本数	9	15	11	10	9	8	8	10	8	1

筆者は学生時代に、中国福建省アモイ大学の海外教育学院（対外中国語教育のノウハウを学ぶ）に 2 年在籍しており、外国人に対してどのように言語・文化を発信するか、という講義に何度も参加した。

中国の多くの対外中国語教育を専門とする修士・博士の学生は、実習として外国人留学生の中国語授業を担当する機会が多く、また申請さえすれば（休学扱いで）海外の大学で 1~2 年間中国語講師をすることもできる。語用論的誤りをテーマとして直接扱わないにしろ、対外中国語分野の研究総数は膨大である⁶。

本研究で学位論文を例として取り上げ、分析をすることは主に以下の 2 点が理由である。

① 修士・博士の学生の方が留学生と接する機会がとても多く、交流も活発だからである。

「在中国专家在办公室喝茶」（中国では専門家はオフィスでお茶を飲む）」という常套文句が存在し、筆者が現在所属している大学もそうであるが、特に留学生の管理や学業の相談、生活の雑務まで中国人の学生が面倒をみるのが圧倒的に多い。調査を行う際にも、自分が受け持っている学生を対象にするなど、環境面での不便は少ない。

②語用論的誤りをテーマにした 258 本の論文中 150 本が学位論文であり、58 パーセントを占めているためである。また、当該テーマが盛んに扱われている大学では 1 人の指導教官のもと、複数の学生が研究していることが多いからである。

例えば、遼寧師範大学で語用論的誤りをテーマに選び、自らデータを収集し研究した学生は連宏宇（2013）、陈胜男（2014）、吕弘菲（2014）、金禹铭（2014）、吴泓霏（2017）であり、この 5 名全員が徐笑一（指導教官）のもとで論文を書いている。一般的に指導教官が同意しない方法で論文を作るのは中国では難しいため、学生の学位論文を通して指導教官の語用論的誤りに対する認識がどんなものであるかを確認することができるからである。

4.2 論文の選定

150 本ある論文を精査した結果、105 本が「語用論的誤りとは何か」という先行研究の整理を行い「語用論的誤り概論」のようなものであったり、実際に調査をすることなく、文献研究という名の下に、多種多様な誤りの例を列挙し解説を加えるという方式であった。その中には、本当にそのような誤りを中国語学習者が犯したのか、学習者のこの発話を誤りだと、果たして結論付けられるのだろうか、という疑わしい例も散見された。

実例を分析するための、その実例がどこから来ているのか引用元がかなり曖昧なものも多く、自身に都合の良いデータを（時には出典情報なしに）論文に用いることは中国ではよくあり、研究に手続き的不備あるものも多い。

馬淵（2008）が「日本人、日本社会、日本文化の印象を自らの個人的体験に基づきエッセイ風を書くといった内容の教材は、数え切れない程出版されて後を絶たない。逆に言えば、それだけ需要があるからだと言える。」（p. 11）というように、「こんな体験をした」というエピソードをもとに、外国人留学生の中国語発話を分析しているものも数多くある。

このような研究デザインで問題になるのは、以下の 2 点であろう。

- i. 実際に調査が行われていない。学習者の誤りは捏造し放題、或いは捏造の可能性が否定できない。さらに研究者（この場合執筆者兼評価者）のバイアスが強く影響する。
- ii. 研究者・学習者に誤解を与える。

i・ii が独立している場合と、複合的（i と ii）な場合がある。

i のケースでは、自身または伝聞などによるエピソードを基に、語用論的誤りを指摘する

ものであり、当該発話が実際に行われたのかの事実確認はできない。調査を経て判明した結果を目標言語母語話者集団に評価してもらうのではなく、研究者自身がエピソードを用いて誤りの認定を行っているものであり、ある研究者は誤りと認定し、ある研究者は適切と認定することがある。

例えば、毛嘉賓（2000）の以下の記述である。

一个留学生迟到，老师埋怨说：“你看，都几点了？”言外之意，中国人不难理解，一个“都”字表达了埋怨的信息，谁知，对此全不理解的留学生居然抬腕看表，然后一本正经作答：“现在是 8：55 分。”（p. 11）

一人の留学生が遅刻，先生は不満げに「もう何時だと思ってるんだ？」と言った。この言外の意味は中国人にとって難しいものではなく，この「都」は不平不満のメッセージを表し誰もが分かっている。しかし，このことに対して無理解だった留学生は意外にも腕時計を見て，真面目に「今は 8 時 55 分」ですと答えた。（筆者訳）

「何時だと思ってるんだ」という発話に，相手は「純粹に「今何時か」と聞いている」と判断することは少ないだろう。ここで言われている留学生もどこから来た留学生なのかが不明なため，その留学生の国での習慣などを確かめることもできない。

また，別の例として王寅（2013）に以下の記述がある。

(1) 中国人说汉语时习惯用礼貌用语，例如我们在乘坐出租车时，会很有礼貌地说：“师傅，麻烦你带我去火车站。”欧美国家的人们则认为乘坐出租车是他们的权利，他们可以直接要求出租车司机送他们到火车站，这是出租车司机的义务和责任，而不是礼貌地请求。（p. 9）

中国人が中国語を話す時は礼儀正しい話し方が習慣となっており，例えばタクシーに乗る際に，「運転手さん，申し訳ないですが駅までお願いできませんか」と礼儀正しく言う。欧米国家の人々はタクシーに乗るには権利だという認識であるため運転手に直接，駅まで行ってくれと要求する。これは運転手の義務であり責任があるため，礼儀正しくお願いすることはない。（筆者訳）

(2) 在欧美国家，礼貌的请求方式是适用于陌生人或是社会地位较高的人，在中国则是适用于所有人的。例如（4）一个人想从朋友那里借一本书，会很有礼貌的请求。

A: “麻烦您能借我看看吗？”

B: “给您。”

A: “谢谢。”

B: “不客气。”

这样礼貌的请求方式则会让欧美留学生朋友感到不适应，因为中国学生和欧美留学生在社会地位上是平等的，如果需要借书可以直接说“Please lend me that book.”。(p. 10)

欧米国家では、礼儀正しく何か依頼するには、相手が知らない人であったり、社会的地位が高い人に対してである。一方、中国では誰に対してにでも礼儀正しい言葉使いをする。(4)の例は、ある人が友達から本を一冊借りたい場面で、礼儀正しくお願いをする。

A: ご迷惑をおかけしますが、貸して頂けませんか？

B: どうぞ。

A: ありがとうございます。

B: どういたしまして。

このような依頼スタイルは、欧米の留学生は適切だとは思わず、それは中国人学生も欧米留学生も平等の地位であり、本が借りたければ直接“Please lend me that book.”と言う。(筆者訳)

王寅 (2013) の (1) と (2) の例は、欧米留学生は中国語の礼儀正しい発話が理解できないという主張を裏付けたためなのか、「中国人ならこのように言う」という模範解答を付けているが、この模範解答自体に問題がある。

(1) にあるように中国人は本当に“师傅，麻烦你带我去火车站。”とここまで丁寧に言うのであろうか。筆者は所属先の外国語学部日本語学科の1~4年生に判断を求めた所、「ここまで丁寧に言うとは思えない」という意見が大半であった。(2) の友人から本を借りるという場面でも、「相手が友人でこんなに丁寧に言うのはありえない」という結論であった。

牛明哲 (2012) では、王寅 (2013) の (1) と正反対の見解を示している。

第 16 題：你从学校坐出租车去机场，你对司机说：

A. 请您送我去机场 B. 师傅，去机场 C. 其他

正确选项为 B。有 24% 选择 A，其中绝大部分为日韩学生。说话并不是越客气越好，要看清楚双方的具体情况。我们叫出租车是付费的，因此你有权利要求司机送你到目的地，对出租车司机的说话方式常常是直接的，过于客气反而让人感觉奇怪。(p.25)

第 16 題：学校からタクシーに乗って空港まで行きます。運転手にどう言いますか：

A. 空港まで送ってもらえませんか B. 運転手さん、空港に行って C. その他

正解は B である。24% が A を選択し、その大部分は日本人韓国人の学生であった。話し方は丁寧であれば丁寧であるほど良いというものではなく、お互いの具体的状況をよく見る必要がある。タクシーを使うのに、我々はお金を支払う。したがって、運転手に目的地まで送るように要求する権利があり、タクシーの運転手に対する話し方は通常直接的に言う。礼儀正しすぎると却って不思議になる。(筆者訳)

iiのケースは、ほかの学習者や研究者に誤解を与えるものである。留学生や中国人学習者と一口に言っても、その内訳（学習者の母語は何語なのかなど）は様々なものであり、論文執筆者が調査対象としたすべての学習者の母語知識を有している場合は少ない。そのため、ある論文で記述されたことが、まるで正しいことのように扱われ、「〇〇語母語話者はこのような間違いを犯す、その理由は××だ」などの本質主義的思考に陥ってしまうこともある。

以下は、中国語の語用論指導をテーマとした董于雯 (2015) が吴丽君ほか (2002) の p. 342 を引用した部分である。この場面は、中国語やインドネシア語でよく挨拶として用いられる「ご飯食べた？」という表現が外国人留学生になかなか学習されないことに対する理由の言及である。

日本人关于美德的想法有一句谚语：“武士吃不上饭也要摆摆架子。”也可以说：“武士不露饿相。”如果对日本人说：“吃饭了吗？”他们肯定生气。因为日本人得到的印象是“你有生活能力吗？”或者“你有钱吗？要不要请你吃饭？” (p.82)

日本の美德の考え方に、「武士は食わねど高楊枝」という諺がある。つまり、「武士は空腹の表情を見せない」のである。日本人に「ご飯食べたの？」と言うと、彼らは必ず怒る。なぜなら、日本人が受ける印象は、「生きる術を知っていますか？」あるいは、「お金を持っていますか？ 食事に誘われたいですか？」というものである。(筆者訳)

著作物にあるプロフィールから、董于雯は日本語に理解がなく、吴丽君等(2002)の本質主義的発話を引用したものである。

筆者は日本人として数十年生きているが、上記のような発想を持ち合わせていないため、この言説には驚きである。

i・iiの問題により、本稿は実際に中国語学習者に調査を行いデータを収集して分析をし、目標言語母語話者による評価を加えた45本の論文を取り上げる。

4.3 語用論的誤りのデータ収集法

表2は、中国語学習者からデータを収集し、誤りの判定を行った研究を整理したものである。収集法として用いられた方法は全体45論文の内、35本が多肢選択によるものであった。

表2

データ収集法一覧

作者	収集法	作者	収集法	作者	収集法
张汉娇(2006)	DTC	蔡晓丽(2006)	DTC	朱海群(2007)	多肢選択
刘蕊(2007)	多肢選択	熊云茜(2007)	多肢選択	徐剑(2009)	多肢選択

蔡环环(2010)	多肢選択	王美玲(2010)	DTC 多肢選択	韩侗(2010)	多肢選択
惠慧(2011)	多肢選択	叶津(2011)	多肢選択	朱明霞(2011)	多肢選択
祝瑞(2011)	多肢選択	金贞林(2011)	DTC	李苏明(2012)	多肢選択
阿留娜(2012)	多肢選択	潘丽英(2012)	多肢選択	唐敬伟(2012)	多肢選択
牛明哲(2012)	多肢選択	连宏宇(2013)	多肢選択	谢春艳(2013)	多肢選択
潘璐(2013)	DTC	张靖(2014)	多肢選択	月亮(2014)	多肢選択
陈胜男(2014)	多肢選択	吕弘菲(2014)	多肢選択	吕弘菲(2014)	多肢選択
王楠(2014)	DTC	文柳晏(2015)	DTC 多肢選択	王国阳(2016)	DTC
杨晓瑞(2016)	多肢選択	王月凤(2016)	多肢選択	孙雯倩(2017)	多肢選択
吴泓霏(2012)	多肢選択	王天宇(2017)	多肢選択	楼敏西(2017)	DTC
孟萌萌(2012)	多肢選択	雷春华(2017)	多肢選択	尹文超(2017)	DTC
段领男(2018)	多肢選択	李帅(2018)	ロールプレイ	金恩姬(2019)	多肢選択
刘骞(2019)	多肢選択	孔令妹(2020)	多肢選択	苏倩(2020)	多肢選択

これらの研究の共通している、或いは傾向としては、多肢選択の多用であり、適切不適切を判断する評価者は論文執筆者自らが1人で行っているというものである。

多肢選択の設問自体が不備のあるものもあり、調査結果を、学習者の間違いやすいポイントを重点的に教授していく言語教育の場に応用する汎用性はそこまで高くはない。

5. おわりに

多肢選択はデータを集める際に非常に便利であり、かつ収集できるスピードも速い。しかし、選択肢の中に A と B 両方正解と言える、という悪門も存在する。さらに、評価者自身の価値観が色濃く反映されるため、セカンドオピニオンのような1人の評価だけを採用するのではなく、複数人による判定がある方がより良いだろう。

多肢選択を採用した調査のほとんどが、使用語彙は異なるが同じような内容であり、特に「友達に対して」、を想定した設問が顕著であった。中には、親友の名前を普段どのように呼んでいるのか、といった答えが存在しえない多肢選択問題もあった。

本来、自身と相手（1人の相手・複数の相手）のコミュニティにおけるキャラクターや、いつも礼儀正しく話していても時には冗談っぽく少々荒っぽい言葉遣いをするなど、選択肢にはない自分なりの「発話」を誰しもが持っている。同じくウチ集団に属する家族と友達でも、話し方は変わってくる。同一人物でも、年齢によって言葉遣いは変化する。

お互いが納得するコミュニケーション・スタイルであれば、他人が誤りだと主張しても学習者には響かない。しかし、全て完全に自由というわけではない。三宅（2011）が「日本語話者のソト層に対する言語行動はパターン化しやすい。（中略）、ことば遣いがパターン化する傾向は、対人関係のとり方に安全性を求めることと無縁ではあるまい。特にソトの間や場面において、適切な言語行動をとることに心を砕くため、規範を求めてマニュアル本に頼るという現象をも生

みだしている。」(p. 15) というように、ソトに対する発話にはかなりの傾向がある。実際これは東アジア言語にある傾向である。評価をする目標言語母語話者集団の完全なる評価の一致の可能性は低いものの、母語話者集団が 180 度異なる評価をする、という可能性もまた低い。

「友達相手に何をどのように言うのか」という設問には、母語話者集団がそれこそ 180 度異なる評価をすることもある。したがって、「友達相手」の設定をさげ、語用論的誤りを扱う以上、相手が気分を害し、発話者の人間性を疑ってしまうようなオフィシャルな場面設定を想定した調査が必要になるのである。発話者の人間性を疑うようなものを含めて、相手が友達だと認識している以上、語用論的誤りになりえないのである。

注

1. 正式名称は“中国知识基础设施工程”(CNKI) という。中国国内で発表・投稿された論文が有料で閲覧できるが、すべての論文がここにアップデートされているわけではない。
2. ここでのキーワードは、“語用失误”(語用論的誤り) である。
3. ここでのキーワードは、“对外汉语 語用失误”(対外中国語・語用論的誤り) である。
4. 対照語用論は清水(2009)によると「異なる言語の母語話者を比較対照することにより、その言語の語用論的、社会文化的な特徴をあぶり出そうとする」(p. 61) と定義されている。「対照語用論」の名称として他に「異文化間語用論」が使われることもあり、清水(2009)では「異文化間語用論」という名称が使われている。
5. Weinreich(1974, 神鳥訳 1976)の定義は「音素体系の大半,(中略),要素を持ち込まれることに起因するところの,諸様式の編成替えのことである。」(p. 1)。Odlin(1989, 丹下訳 1995)の定義は「目標言語と,(中略),習得された他の言語との間の,類似点及び相違点から生じる影響をいう。」(p. 32)。張(2001)の定義は「学習者が,(中略),無意識に母語のルールを運用して起こす現象」(p. 135)。迫田(2002)の定義は「学習者の母語と目標言語との違いが言語習得に影響する。」(p. 86)。
6. “知网”で“对外汉语”を検索すると 5.04 万もの論文がヒットする。その内、修士・博士論文は 2.77 万本である。

参考文献

- Herbert W. Seliger, Elana Shohamy. (1989). *Second Language Research Methods*. Oxford University Press. (土屋武久, 森田彰, 星美季, 狩野紀子(訳)(2001)『外国語リサーチマニュアル』大修館書店)
- 池上真人(2015a)「多肢選択文法問題の設問形式に関する研究: 択一式と複数選択式の解答プロセスに焦点をあてて」『言語文化教育』35(1), 55-72
- 池上真人(2015b)「択一式と複数選択式の多肢選択文法問題の比較研究」『四国英語教育学会紀要』35(1), 15-24
- Kasper, G. (2000). Data collection in pragmatics research. In H. Spencery-Oatey (Ed.), *Culturally speaking: Managing rapport through talk across Cultures*. 316-41. Continuum. (浅羽亮一(監修) 福島佐江子(訳)(2004)「語用論研究におけるデータ収集」『異文化理解の語用論: 理論と実践』第6章, 研究社, pp.134-168
- Kasper, G. (1992) Pragmatic transfer. *Second Language Research*, 8(3), 203-231

- 宇佐美洋 (2014) 『「非母語話者の日本語」は、どのように評価されているのか：評価プロセスの多様性をとらえることの意義』ココ出版
- 小野正樹 (2020) 「日本語教育と応用語用論」加藤重広・澤田淳 (編) 『はじめての語用論：基礎から応用まで』第 15 章, 研究社, pp. 240–254.
- 大平未央子 (2009) 「ネイティブスピーカー再考」野呂香代子・山下仁 (編) 『「正しさ」への問：批判的社会言語学の試み』3 章, 三元社, pp. 85–110.
- 佐藤慎司・奥泉香・仲潔・熊谷由理 (2013) 「文化」：文化人類学とことばの教育における文化概念の変遷と現状」佐藤慎司・熊谷由理 (編) 『異文化コミュニケーション能力を問う：超文化コミュニケーション力をめざして』第 1 章, ココ出版, pp. 3–31.
- 清水崇文 (2016) 「応用語用論」加藤重広・滝浦真人 (編) 『語用論研究法ガイドブック』第 8 章, ひつじ書房, pp. 217–238.
- 清水崇文 (2018) 『コミュニケーション能力を伸ばす授業づくり：日本語教師のための語用論的指導の手引き』スリーエーネットワーク
- 田所希佳子 (2016) 「場面に重点を置いたコミュニケーション教育において評価の多様性に注目する意義」宇佐美洋 (編) 『「評価を持って街に出よう：「教えたこと・学んだことの評価」という発想を超えて」』第 9 章, くろしお出版, pp. 155–170.
- Thomas, J.(1983) Cross-cultural pragmatic failure. *Applied linguistics*, 4(2), 91–112
- 宇佐美洋 (2014) 『「非母語話者の日本語」は、どのように評価されているのか：評価プロセスの多様性をとらえることの意義』ココ出版

中国語参考文献

- 阿留娜(2012)《俄汉交际中的语用失误研究》长春理工大学 硕士学位论文
- 蔡环环(2010)《泰国留学生汉语语用失误调查》西南大学 硕士学位论文
- 蔡晓丽(2006)《日韩和东南亚留学生习得汉语拒绝言语行为的调查研究》暨南大学 硕士学位论文
- 陈胜男(2014)《俄罗斯留学生汉语拒绝言语行为的语用失误研究》辽宁师范大学 硕士学位论文
- 段领男(2018)《韩国学生汉语招呼语语用失误调查研究》吉林大学 硕士学位论文
- 董于雯(2015)《对外汉语语用教学研究》中国社会科学出版社
- 韩侗(2010)《留学生汉语习得中语用失误的考察与分析》华中科技大学 硕士学位论文
- 惠慧(2010)《哈萨克斯坦哈萨克族来华留学生汉语招呼语使用情况调查》新疆师范大学 硕士学位论文
- 金恩姬(2019)《韩国留学生对中国女性称谓语语用失误及教学建议》浙江大学 硕士学位论文
- 金禹铭(2014)《俄罗斯留学生汉语恭维语的语用失误研究》辽宁师范大学 硕士学位论文
- 金贞林(2011)《韩国学生的汉语语用偏误分析及教学建议——以“请求”，“拒绝”，“道歉”为例》山东师范大学 硕士学位论文

- 孔令妹(2020)《对外汉语教学中留学生招呼语语用失误调查研究》曲阜师范大学 硕士学位论文
- 雷春华(2018)《西方留学生汉语学习中的文化差异冲突现象研究》江西师范大学 博士学位论文
- 李帅(2018)《汉语作为第二语言的学习者“请假”言语行为的语用研究》华东师范大学 硕士学位论文
- 李苏明(2012)《面向对外汉语教学的汉英礼貌用语对比分析》沈阳师范大学 硕士学位论文
- 连宏宇(2013)《俄罗斯留学生汉语请求言语行为语用失误研究》辽宁师范大学 硕士学位论文
- 刘骞(2019)《初中阶段泰国中学生常见汉语社交语用失误现象分析——以帕瓦纳·菩提坤职业学校学生为例》浙江科技学院 硕士学位论文
- 刘蕊(2007)《美国学生汉语习得中社交语用失误的考察与分析》北京语言大学 硕士学位论文
- 楼敏西(2017)《中亚留学生汉语请求—道歉言语行为语用失误研究》新疆大学 硕士学位论文
- 吕弘菲(2014)《俄罗斯留学生汉语称呼语行为语用失误研究》辽宁师范大学 硕士学位论文
- 毛嘉宾(2000)《外国人学汉语的语用失误探析》烟台师范学院 硕士学位论文
- 孟萌萌(2017)《韩语母语者汉语问候言语行为偏误研究》河南大学 硕士学位论文
- 牛明哲(2012)《外国学生汉语语用失误探析——以礼貌语为例》山东大学 硕士学位论文
- 潘丽英(2012)《试论跨文化交际中词汇的语用失误》黑龙江大学 硕士学位论文
- 潘璐(2013)《俄罗斯留学生习得汉语拒绝言语行为的研究》沈阳师范大学 硕士学位论文
- 苏倩(2020)《来华留学生汉语礼貌语语用偏误分析及教学对策与设计》青岛大学 硕士学位论文
- 孙雯倩(2017)《面向美国留学生的中国礼仪文化教学研究》黑龙江大学 硕士学位论文
- 唐敬伟(2012)《顺应理论视角下的外国留学生日常交际语用失误研究》山东大学 硕士学位论文
- 王国阳(2016)《来疆中亚留学生汉语拒绝言语行为语用调查与分析》新疆师范大学 硕士学位论文
- 王美玲(2010)《对外汉语文化语用教学研究》陕西师范大学 硕士学位论文
- 王楠(2014)《蒙古国留学生汉语交际语用失误研究》内蒙古师范大学 硕士学位论文
- 王天宇(2017)《留学生汉语寒暄语语用失误调查研究》沈阳师范大学 硕士学位论文
- 王月凤(2016)《基于顺应理论的跨文化语用失误研究——以云南师范大学东南亚留学生为例》云南师范大学 硕士学位论文
- 文柳晏(2015)《跨文化交际视角下的汉英谦语比较》河南大学 硕士学位论文
- 吴泓霏(2017)《请求, 称赞, 辞让, 含蓄类言语交际行为语用失误研究及教学策略》辽宁师范大学 硕士学位论文
- 谢春艳(2013)《越南留学生汉语敬语语用偏误分析》广西民族大学 硕士学位论文
- 熊云茜(2011)《汉语招呼语语用及教学对策研究——基于泰国学生语用能力的调查》北京语言大学 硕士学位论文

- 徐剑(2009)《留学生日常交际语的语用失误研究》华中科技大学 硕士学位论文
- 杨晓瑞(2016)《中高级阶段塔吉克斯坦留学生汉语礼貌用语语用偏误分析》新疆师范大学 硕士学位论文
- 叶津(2011)《俄罗斯留学生汉语语用失误调查分析》黑龙江大学 硕士学位论文
- 尹文超(2018)《越南中级阶段留学生汉语拒绝言语行为的调查研究——以广西民族大学越南中级阶段留学生为例》广西民族大学 硕士学位论文
- 月亮(2014)《吉尔吉斯斯坦汉语学习者社交范畴的语用偏误考察》上海师范大学 硕士学位论文
- 张汉娇(2006)《留学生汉语招呼言语行为研究及教学研讨》暨南大学 硕士学位论文
- 张靖(2014)《欧美留学生源于言语交际文化差异的语用偏误分析及对策》辽宁大学 硕士学位论文
- 朱海群(2007)《论留学生汉语语用失误分析与对策》广东外语外贸大学 硕士学位论文
- 朱明霞(2011)《欧美留学生跨文化社交语用失误研究》西南大学 硕士学位论文
- 祝瑞(2011)《留学生使用汉语招呼语的语用失误研究》南京师范大学 硕士学位论文